届け 世界の果てまでも

令和４年９月２８日　Ｎｏ．３６　文責　校長　飯久保一男

１日順延となりましたが，運動会へのご理解とご協力ありがとうございました。
運動会の様子は，本校ホームページ【学校のひろば】→【日々のようす】で振り返っています。ご覧ください。

ルールやマナー … 我慢が必要な場面・強さや勇気が必要な場面

子どもを連れて，電車に乗って出かけることを想像してみてください。社会の常識やルール・マナーを子どもが学ぶいい機会だと思います。でも…，我が家のことを思い出すと，息子たちが小さいころにヤツらを連れて電車に乗るなど，周りに迷惑をかけないだろうかとヒヤヒヤものでした。

親１人で子ども１人を連れて行くときと，２人を連れて行くときでは，２人のときのほうが，そのヒヤヒヤが２倍以上になることは分かっていただけると思います。それが３人，４人…と増えていったらどうでしょうか。大人数の子どもたちを引率して校外学習に行く教職員の苦労が分かってもらえるのではと思います。本校では校外学習に行く前には，必ず事前学習をします。見学場所についての学習もしますが，ルールやマナーについても必ず指導します。

家庭で出かけるときはどうでしょう。子どもたちはルールやマナーをどのように学んでいるでしょうか。

スーパーマーケットへ買い物に出かけたときの話。

その日は特売日で，いくつかあるレジはどれも長い列ができていた。順番を待っている私のすぐうしろに，幼い２人の子どもを連れた父親が並んでいた。５歳と３歳くらいの男の子だった。上の子が大事そうにバナナを一房抱えていた。

待っている間，２人の男の子は騒ぐこともなくおとなしくしていた。「この年ごろだと，じっとしていられないのが普通なのに行儀がいいなあ」と思った。

私の順番が来たとき，父親に声をかけた。

「お先にどうぞ。」

すると，意外な言葉が返ってきた。

「ご親切ありがとうございます。でも，子どもたちには並んで我慢するということを覚えさせたいと思います。」

そう言って頭を下げられた。「今どき，こんな立派なお父さんがいるんだ」と驚いた。

電車の中で，自分よりも年配の人や，赤ちゃんを抱いた人に席を譲った際に，「結構です」と遠慮されたことがある。席を譲ることの難しさだ。譲る方も譲られる方も気まずくなる。だから，この父親の「相手の気分を害さないように」という気遣いまでもが伝わってきた。レジの店員さんもやりとりを聞いていたらしく，目を合わせてほほ笑んだ。

子どもの虐待のニュースが目につく。しつけと暴力をはき違えている親がいることに驚く。そんな中，素晴らしい子育てをしていらっしゃるなあと感心した。

将来，ステキな大人になるんだろうと思いつつ，３人の親子のうしろ姿を見送った。

中日新聞「ほろほろ通信」より（一部修正してあります）

裏面のコラムの「並んで我慢するということを覚えさせたい」との言葉は，この家庭の「しつけ」の一つだと思われます。「並んで待つ」文化は日本人の誇れる文化であり，海外の人々から称賛されるマナーです。こうやって，日本人が，親から子どもへ伝えてきた文化です。

今，「我慢できない子」が増えています。１時間も立ったまま待てといっているのではありません。少しの時間を静かに並んで待つ我慢を覚えさせたいというこの父親の「しつけ」は，日本人ならば普通のことだともいえますが，裏面コラムの筆者は，すばらしい父親と子どもだと感じているのです。

姿勢を整えること，話し手の方を見て話を最後まで聞くこと，嫌だと思うことにも挑戦すること・簡単にあきらめないことなど，普通にできるよう成長していってほしいと思います。教師が魅力のある授業をすることが前提にあり，授業は我慢を強いるものではないことも大前提ですが，授業中なのに立ち歩いたり，教室を抜け出したりすること，手いたずらをしたり，じっとしていられなかったりする授業への参加態度など，前提を差し引いたとしても，少しは我慢してほしい場面を目にします。そして，それらを正当化するために，なんだかんだと理屈をつけ，人のせいにするという態度では，なかなか成長はできません。

＜集団やグループになった場合のルールやマナーについて＞

１人ではできないことが，仲間が増えることでできるようになります。仲間がいることは心強いことです。しかし，何人かで「つるむ※」と，ルールやマナーに反することをしてしまう場合があります。仲間がいるという心強さを勘違いしてしまって，気持ちが大きくなり，以前にどこかの県であった「荒れる成人式」のように，ルールやマナーを無視した暴走につながってしまうことさえ起こります。

お互いがプラスの方向に押し上げ合う関係の集団やグループは歓迎しますが，マイナスな方向に引っ張り合う関係の集団やグループは好ましくありません。

※「つるむ」という言葉は，いい人間関係を指さない場合のほうが多くあります。
…同調圧力についてのことや「赤信号みんなで渡ればこわくない」という言葉についてなどは，昨年度の校長通信 No.３４に書いています。

集団やグループがマイナスな関係となりかけたときには，それを断ち切ったり，止めたりする強さや勇気をもってほしいと思います。

例えば，「小笠原小のやくそく」の中には次の約束があります。

> ゲームセンター，ボウリング場，カラオケボックス，大型ショッピングセンターなどは，保護者と一緒に利用します。　…「小笠原小のやくそく」はホームページ【学校のひろば】に掲載してあります。

数人で遊んでいたとき，その中の１人が「ゲームセンターに行こう」と言い出しました。何人かが「行きたい」と賛同しました。子どもだけで行ってはいけない約束があるのに，「赤信号みんなで渡ればこわくない」と，周りに流され，みんなで行くことになってしまうことも考えられます。そんなとき「学校の約束を破ることになるから行かない」と言えるでしょうか。さらに，それはダメなことだと他の子を止めることができるでしょうか。

「そうだよな」と考え直す仲間がいる場合もあると思いますが，グループの質によっては「まじめぶっちゃって」とか「付き合い悪いなぁ」などと嫌味を言われたり，「金を貸してやるから行こう」などと誘われたりする場合もあるかもしれません。そんな場面になっても，ダメなことはダメと正しい行動をとるためには強さや勇気が必要です。

…次号「集団の心理」に続きます。